

実り豊かに 収穫の秋

収入保険に加入 不測の事態も想定

エビイモ

鈴木 保雄さん 静岡県磐田市

【静岡支局】「『速やかに仕事を』『整理整頓をする』『先を読む』の3点を心掛けて、質の良い海老芋（エビイモ）を生産し続けたい」と話すのは鈴木保雄さん(73)。磐田市でエビイモ40畝を栽培している。

エビイモはサトイモの一種。特殊な栽培をすることで、大きく、エビのような湾曲した形となるため、こう呼ばれる。全国シェアの多くを磐田産が占め、そのほとんどは高級食材として京都や大阪、東京などに出荷されている。

1株ずつ手で行う芽かきや葉かき、土寄せなどの作業が芋の大きさや形に影響。品質や価格を左右する。これらは機械化が難しいが、土寄せを可能な限り機械で行うほか、

メーカーの協力を受け、造られた肥料散布機と鈴木さん



産地の継続・強化目指す

鈴木さんが出荷するエビイモの長さは15〜20センチほど



メーカーの協力を受けて肥料散布機を造るなど、工夫を重ねて効率化を図った。この結果、地域の平均収穫量の1・5倍を生産している。

鈴木さんは「健康管理農業」に切り替えていきたい」という鈴木さん。2020年はコロナ禍で出荷先の需要が低下し、相場が伸び悩んだ。これをきっかけに、心身ともにゆとりを持った農業経営を続けるためには、収入の安定が欠かせないと考え、21年に収入保険に加入した。

また本年度は市とJA遠州中央、エビイモ生産者が連携して展開する「特産品（海老芋）継承事業」で、30代の研修生に技術指導を直接行っており、「やる気のある若い人に積極的にノウハウを伝えたい」と意気込む。（向井）